

平成25年度第2回子ども・子育て会議 会議録

日 時	平成26年1月16日(木) 14:00～15:40
場 所	鎌ヶ谷市役所 第1・2委員会室
出席委員	山本会長、西副会長、引田委員、松岡委員、加郷委員、 長谷川(美)委員、松村委員、中村委員、菊池委員、皆川委員、 石神委員、長谷川(そ)委員、榎本委員、鈴木委員、中井委員
事務局	望月健康福祉部参事(こども課長)、 田中健康福祉部参事(健康増進課長)、飯田保育支援室長、 鈴木子育て総合相談室長、菅井健康増進課主幹、 大野こども支援室長、こども支援室:星主査、乗田主任主事
記 録	乗田
傍 聴 者	なし
議 題	(1) 鎌ヶ谷市子育て支援に係るアンケート調査結果について(速報) (2) 教育・保育提供区域の設定について (3) (仮称)鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画イメージについて (4) その他

会 議 内 容

1 議 題

(1) 鎌ヶ谷市子育て支援に係るアンケート調査結果について(速報)

～事務局より資料1-1、資料1-2、資料2に基づき説明～

委 員 他市の調査結果と比較はされるのか。

事務局 今回の調査については、全国一斉に同じ時期に実施することから、各市の情報を取得、共有ができれば報告させていただきたいと考えております。

委 員 障がい児への支援の項目で、やや不満、大変不満の合計が70件あるが、その内容はどのようなものか。

事務局 今回示させていただいたのは、単純集計になりますので、どのような内容であるかまでは、把握できておりません。現在、自由意見の集計をしているところですので、そちらがまとまれば内容がわかるかと思えます。

委 員 障がい児支援への質問は、実際に障がい児を持つ親に聞かないと実

態をつかめないと思う。「どちらともいえない」と回答しているのが70%強いますが、実態が分かっていないのではないか。そういった意味でも、障がい児をもつ親を対象として、より細やかに聞き、実態を把握したうえで計画策定に反映してほしい。

事務局 ご指摘のとおりと考えております。今回の調査を分析し、実態を踏まえながら進めてまいります。

委員 5年前に調査した結果と、今回の結果では、市民の意識や市の予測に大きな違いはあったのか。市民が感じる感触と行政が感じる感触は違うのではないかと思うがいかがか。

事務局 今後の分析結果や自由意見等から判断したいと考えております。

(2) 教育・保育提供区域の設定について

～事務局より資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料3-4に基づき説明～

委員 2区域に分けた際に、西部地域の人が東部地域の保育園を利用することは可能か。

事務局 この区域設定については、施設整備の指標になりますので、今までどおり区域に関係なく利用可能です。

委員 区域数についてですが、1区域か2区域と事務局から提案されましたが、コミュニティエリアで分けた6区域とすることはできないのか。区域数が多いことのデメリットとして、施設が整備されることにより他の施設の稼働率が悪くなることが挙げられていたが、施設に特色があれば、親は特色のあるところに入れたいと思うし、遠くても不便を感じないと思う。事務局から提案された2案の他に6区域についても案としてほしい。

事務局 区域をコミュニティエリア6区域で分けると、保育園がない区域や幼稚園が無い区域が発生し、その区域に施設を整備しなければなりません。鎌ヶ谷市は、行政面積が狭く、市街化調整区域も約半分を占めることから、全域でとらえた方が、需要と供給のバランスが取れるものと考えておりますので、今回2案を事務局として提示させていただきました。

会長 幼稚園や保育園の事業者の方はいかがですか。

委員 自分らしい生き方がいいと思っているので、できるだけ希望するところに優先して入園してもらいたいので、行政面積が狭いという点も含めて1区域がいいと思う。

委員 住んでいるエリアの幼稚園を選んでいるわけではないように思う。保育園も同様に利便性とかを考慮して選んでいるので1区域がいいと思います。

委員 保育園の利用を希望する方は、市に第1希望、第2希望と保育園を申請するので、多くの方が希望する保育園に入れていると思います。

事務局 調査の分析結果がまとまりましたら、委員から提案されました6区域も含めて、次回改めて提示させていただきたいと思います。

委員 保育園と幼稚園では、利用状況が違う。幼稚園は、雰囲気や教育方針で決める親が多いと思います。保育園は、仕事をする人がメインになるので、利便性もそうですが、入れるところに入れなければならなくて、選べないと思う。幼稚園については、地域は関係ないと思うが、保育園については、自宅の近くに入れられたらいいなという意見を多く聞くので、各地域にあった方がいいと思う。保育園は公立を増やしていくのか、何をメインとして考えているのか。

事務局 どこにどのような施設を設置するかは、今回の調査の分析結果で数値として出てきますが、仮に1区域になったとしても、今後5年間に小規模保育園等を必要な場所に必要な施設を設置していくという計画をしていかなければならないと考えております。

利用調整は、保育園については、今まで通り市の方で調整していきます。また、幼稚園については、必ず市に申請をして認定していくという形になります。

委員 全区域にすることで、調査結果が生かせるのかが疑問である。幼稚園は、利用状況等を考えると1区域でもと良いと考えられるが、地区の特性を生かして数区域がいいのかなと思う。例えば、住宅地や利便性を考慮するなどの市としての方針が必要になるのではないかと思う。

また、今回の調査結果をみると、都心に比べて鎌ヶ谷市は、幼稚園志向が強い地域であると考えられるので、広い区域で考えた方が良くとも思う。

委員 南部地区の未就学児の人口が多すぎると思うが、どのような区域分けをしたのか。南部地区には馬込沢や東道野辺一丁目などが入っており、小学校学区とは違ってくるので、南部地域の人が南部地域の施設に入るというのが違ってくるのではないかと思う。幼稚園などの利用者を考えると小学校の学区というのも無視できないのではないか。

事務局 人数につきましては、小学校区で分けているのではないので、数字の間違いはないです。

また、区域の精査につきましては、最低でもこの6区域で回答をしてもらっていますので、小学校区等での分析は難しいです。

会 長 委員の皆さんからいろいろな意見を頂きましたので、次回、分析結果を踏まえた案を提示してもらい、改めて議論し区域数を決定していきたいと思います。

(3) (仮称) 鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画イメージについて

～事務局より資料4に基づき説明～

委 員 鎌ヶ谷市が子どもを育てるのにあたってどういうイメージを持っているのかというのを大事にしてほしい。待機児童解消や親のニーズに応えるために、駅前や駅の中などに設置されていて、園庭が無いところもある。子どもたちを育てるうえで、大声を出せたり走り回ったりと各年代における環境が大切である。現在各幼稚園は、子どもたちを育てる環境が整っているので、幼稚園をうまく活用するとか、従来の設置基準に加えて子どもたちを育てるための設置基準も定めてもらいたい。

また、最近、障がい児やグレーゾーンの子どもの数が増えている。幼稚園で障がい児を受け入れる場合、児童相談所の認定を受けた子や特定の医師の診断書があれば補助金がいただける。今度、鎌ヶ谷市に制度が変わった場合に、同じように補助が受けられるのか。人的な支援は、障がい児にとって非常に大事であるので、子どもたちのためにもお願いしたい。

会 長 委員からご意見いただきましたので、配慮されるようお願いいたします。

2 報告事項

子ども・子育て支援新制度対応システム導入について

～事務局より資料5に基づき説明～

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成26年3月6日

氏 名 松岡 康太郎

氏 名 加郷 由里子